

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		市民・行政・民間が連携した市民自治の仕組みの構築	多摩市
アイデア名(注2) (公開)	市民自治の民主主義を支える真のプラットフォームの構築		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	市民のミカタ & CodeForTama		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	6名		
代表者情報	氏名(公開)	花谷修一	
メンバー情報		鴨川威、大串幸彦、鈴木貴雄、佐藤真史、小出聡	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をする社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

曰く

1. 政策過程全体にわたり行政と議会が政策競争
2. 政策過程全体にわたり市民も参加
3. IT を活用した市民との対話

ということは 多くの文献や書籍にも紹介されている。

1は二元代表制の根本思想に関わることであるが議会と行政では有する情報量の圧倒的な差によって議会が真に行政と政策競争して行政をチェックできるかは疑わしい。

2は地方自治の基本とされる。しかしながら行われていることと言えば、市民からの公募とは言え限られた人間による委員会形式の検討会、一回限りのパブリックコメント、ワークショップと言いながら行政サイドの一方的な説明会

以上の伝統的な方法では、形通りのアリバイ作りとの批判が免れず市民参加による真の合意を得て政策が遂行されているとは言い難い。

3は近年の IT の発展を見て多くの人が活用できないかと考える。しかしながら既存の SNS はフェイクニュースの言葉に代表される負の側面が報じられるようになってきた。根拠のない発言や無責任な発言を排除する仕組みがないからである。

これらの問題は私は民主主義を支える真のプラットフォームがないからだと考える。。

<解決アイデアの内容>

議会に対しては行政サイドに負けない情報を現場の声として市民が支える形で届ける仕組みを作る。

閉じられた委員会や一回限りのパブリックコメントではなく常設されるディスカッションサイト。そして意見を集約するプレゼンテーションの機会。行政サイドが確かなデータをありのままに準備し市民の誰もがそれを見て、時には分析をして意見が言える仕組み。そしてデータに基づくそのような意見こそが重宝され評価されて根拠のない発言が自然に排除される。

真の民主主義を醸成するこのような環境が整え、これらの仕組みを支えるプラットフォームとして下記を提案したい。

XView <https://xviews.jp/>

そして この XView を利用した多摩市向けのプラットフォームの一例として

市民フォーラム@多摩市 ByGov <https://xviews.jp/sample/>

を下記のように運用することを提案する。

1. 個人情報に抵触しない範囲で市政に関するデータをありのままにオープンデータとして XView に掲載する。
2. テーマに応じてアナライザブルレポートとしてこれを発表する。
3. 市民に広く周知し意見を求める。
4. 本サイトを常設しておく。市民はいつでもこれにアクセスすることができてデータや確かな情報に基づいて議論ができる場とする。
5. ネット上での議論が煮詰まったところでリアルタイムのワークショップを開催する。
6. このワークショップには老若男女誰もが参加できるものとする。このためには仕事を持っている一般市民にとって平日の夜がいいかもしれない。もしそうだとしたらオンラインワークショップとすべきである。近年このためのツールが安価に使用できる。(例えば Zoom) XView はこのようなオンライン会議システムと相性がよい。
7. 最終的には合意を確認するためのプレゼンテーションの場を設ける。

尚、これは COG 多摩市の課題

「公開された各種財政データを活用して、市民が自分事として行財政状況を把握できる環境整備」
で提案したアイデア

「公開された各種財政データの XView による行財政状況の把握とこの活用による市民とともに作る財政白書」
で紹介したサイトと同じである。

本テーマについては

本サイトの ワorkshop 「市民フォーラム・市民自治」にその議論の一例を掲げる。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

<解決アイデアの理由>

本サイトのバックヤードに多くのデータや情報を準備しておくことで議論のための基盤とする。これを下記機能によって市民自治における合意形成を得るためのプラットフォームとすることができる。

1. 市民にとってデータや情報が視覚化されてわかりやすく提供できる。
2. 市民はここからデータや情報を容易に引き出すことができる。
3. 必要ならばそのデータを市民自身が深掘りして分析できる。
4. 市職員と市民 あるいは市民同士がデータや分析結果を持ち寄ることができる。
5. 市職員と市民 あるいは市民同士で常時ディスカッションできる。
6. コンテンツを共有化できることでオンライン会議システムと相性が良い。
7. プレゼンテーションツールとなる。

本サイトの機能については XView <https://xviews.jp/> または「公開された各種財政データを活用して、市民が自分事として行財政状況を把握できる環境整備」に対するアイデア

「公開された各種財政データの XView による行財政状況の把握とこの活用による市民とともに作る財政白書」の説明を参照されたい。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデア実現までの流れ>

現在 「財政白書プロジェクト」以外に 「市民フォーラム@多摩市 ByGov 」 を使用して多摩市と協働で行うプロジェクトの企画はない。

しかし このサイトを使って独自の市民フォーラムを行いたいという市民団体がある。このための「市民フォーラム@多摩市 ByCitizen」の検討をしている。

これを実現する主体は当該団体とし実現するにあたってのなすべき事項は特にない。

ただし市政の課題について討議するためには市役所との協力関係が欠かせない。そのための調整はこれからである。

<自治体から入手したデータ>

多摩市自治基本条例 自治推進委員会
 多摩市財政白書（過年度分 参考データとして） 決算報告書 中期財政見通し
 固定資産台帳（多摩市施設白書）
 市の人口データ 空き家調査データ等

<自分で入手したデータ >

国勢調査
 市町村決算状況調べ等 政府統計

尚 今後これ以外にも都のデータや民間調査データも取り扱う予定

<市民フォーラム@多摩市 ByGov <https://xviews.jp/sample/> ハンズオンで確認いただきたい機能>

1. ポータル アナライザブルレポートのタイトルから各レポートの内容が見えること
 2. 各レポートの各グラフ画像から投稿フォームに導かれること
 3. 各レポートのグラフ画像から XView グラフ（グラフの拡大）に導かれること
 4. ポータル ワークショップ 第一回財政白書作成会議からプレゼンテーション画面を開く
 5. プレゼンテーション画面の構成
 ーサイドバーに投稿のタイトル一覧 と 「投稿する」の投稿ボタン
 ー最初のプレゼンテーション：タイトル「財政白書プロジェクトの趣旨」
 画像から 過年度の財政白書にリンク
 タイトルから 本文 及び ディスカッションのためのコメントフォーム
 セッションで投稿が分類分けされていること
 6. 投稿 1 「決算報告書を見て思うこと」から
 グラフ画像から XView グラフ
 「このソースから独自の分析をしよう！」ボタンからソースデータへ
 ソースデータ「一般会計歳出決算」の「本表の機能」を参考にその画面の機能の確認
 例えば 款->項->目->事業名とドリルダウンできること
 7. 投稿 2 「固定資産台帳を見て思うこと」から
 画像から「固定資産台帳（建物）」へ
 「本表の機能」を参考にその画面の分析機能の確認
 ここでは期末簿価でソートしている。他にヘッダのプルダウン 検索機能等
 8. 投稿 3 「東京 26 市高齢化率分析」から
 画像から「東京 26 市全指標比較」の散布図（縦軸「高齢化率」横軸「財政力指数」）
 縦軸 横軸とも指標に変えることで例えば高齢化の影響を考察することができること。
 9. 投稿 4 「東京 26 市指数マップを見て思うこと」から
 画像から「東京 26 市全指数比較マップ」へ
 財政力指数の偏差値を地図上に表示したものである。
 プルダウンから他の指数も地図表示できること
 必要ならソースデータにアクセスして各指数のランキング表示ができること
 10. 新たな分析の結果は新たなグラフとしてグラフ登録できる。そのグラフはアナライザブルレポートの一つである「マイレポート」に登録されること。これを投稿フォームの XView アナライザブルレポートから参照でき、これを引用して投稿できる。
 11. ポータル ワークショップ 市民フォーラム・市民自治 に掲げる一連の投稿
11. 以上をご理解のため仮投稿いただいても結構です。